



# 本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！

「子どもの虫歯の有無は親の学歴で決まる」

歯のケアは“余裕”に左右されている親の学歴と子どもの虫歯のカンケイ

以前こんな報告がされました。

歯磨きが大切なこと、甘いものが歯によくないことは誰もが知っていることですよ。知識はあっても、それを実行に移す時間的、経済的な余裕がないことが問題です。「健康格差」が乳幼児を容赦なく蝕んでいるという現実。厚生労働省が実施した調査から、某大学が約3万5000人の子どもを対象に、2歳6か月から1年ごとに虫歯の治療を受けた割合を分析。その結果、両親がともに大学等卒業以上の場合は、2歳6か月で5・6%、5歳6か月で31・5%。対して両親がともに高卒以下の場合は、2歳6か月で8・5%、5歳6か月では41・5%にはね上がり、“学歴格差”が明らかになった。学歴が低い＝所得が少ないという構図があり、収入が低いと、共働きが多く、時間的・経済的に生活に余裕がなくなるわけです。余裕があれば、歯のケアに手が回るし、余裕がなければ手が回らないということです。学歴や所得は、生活の余裕を示す指標になる。例えば、ひとり親世帯はかなりの割合で貧困家庭なのですが、仕事から帰ってきて子どもをお風呂に入れ食事を作り、とかなり忙しい。人によっては2つの仕事をかけ持ちしている親だっているわけです。すると歯の健康のケアまでどうしても手が回らない。忙しいためお菓子やインスタント食品を与えてしまうのです。そんな負の循環があります。学歴の高い母親の場合、虫歯の発症率が低いのはきちんとケアをしているから。母親の学歴が低い家庭では、子どもの虫歯をそれほど重要視していないと推測できます。病院に連れて行くのも母親が多いでしょうし、それだけ母親の影響というのは大きいということです。

まとめ：あくまでも統計上のお話です。学歴が低くても高収入の方や、ほったらかしでも虫歯のない子もいます。お子様の時間のある夏休みに一度歯医者に行ってみてはいかがでしょうか、、、

あなたも「**歯科通**」になれる？

歯医者が出題する “**歯とお口**”のクイズ

歯には、前歯・犬歯・奥歯があります。前歯には「噛み切る」、犬歯には「切り裂く」、奥歯には「すり潰す」といった機能がありますが、それぞれどのくらいの力を持っているのでしょうか？そこで今回はこんな問題を出題！

Q 食事の時、“奥歯”にはどれくらいの力がかかるのでしょうか？

① 5kg

② 20kg

③ 60kg

④ 100kg

